

農業・稲作体験活動

お米も野菜もたくさん収穫できました！



農業・稲作体験活動は、稲作や野菜作りを通じて、自然や人とのふれあい、勤労と収穫の喜びを体験することで、心豊かな子供たちを育てることを目的としています。農業・教員経験者等で構成されている「市川米っくらぶ」に業務を委託し、平成13年から大野町4丁目の小川再生親子ふれあい農園内で行われている事業です。



【ジャガイモ収穫】



【田植え】



【稲刈り】



【長ねぎ収穫】

稲作では、水田にて「代掻き」「田植え」「はぜ作り」「稲刈り」「脱穀」を実際に体験し、野菜作りでは玉ねぎやジャガイモ、南瓜、長ねぎ、落花生、さつまいも、大根等、季節に応じた野菜の植え付けから収穫まで年14回程度の活動を実施しています。さらに、農園内の環境や生態系を学ぶための野外学習「昆虫教室」を作業前に実施する活動日もあります。

今年の収穫量は、お米が479kg、玉ねぎ70kg、ジャガイモ600kg、南瓜120kg、長ねぎ200kg、さつまいも200kgなど、お米も野菜もたくさん収穫できました。

参加した子供や保護者からは、「農業・稲作体験を通じた自然とのふれあいや、作物への感謝の気持ち、収穫までにかかわった多くの方々への感謝の気持ち、教科書や本を読むだけでは学習できない貴重な体験ができた。」という声が数多く寄せられています。

【青少年育成課】

実りの秋
「ふれんど米」

市川市適応指導教室「ふれんどルーム市川」では、小学生の子供たちを中心に、6月からバケツで稲を育てる体験活動をしてきました。「ふれんどルーム市川」で、バケツ稲を育てる活動は初めてのことで。

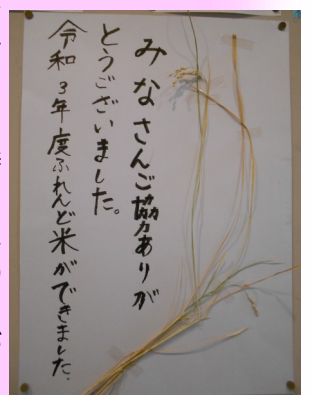
小さな稲の苗をバケツに植え、稲が育つ様子を毎日観察してきました。すくすく育つ稲を手で触ったり、じっと稲穂を見つめたりする子供たち。時には稲にくっついてたバタなどに驚きながらも収穫の時期を楽しみにしてきました。

そして10月。いよいよ収穫となり、自分たちで育てた稲を丁寧に一粒残らず収穫を完了し、今はピンと割り箸を使いながら脱穀の作業をしています。ピンの中にある稲を割り箸で押しながら、もみ殻を取る作業はとても大変で、友達と交替しながら、時間をかけて作業を続けています。

土やバケツを提供していただいたり、稲の周りに生えている雑草を取っていただいたり、子供たちの活動を見守ってくださる人々の温かい支援の輪の中で、今回のバケツ稲を育てる体験活動を行うことができました。

収穫した米、一粒一粒に協力してくれた周囲の人たちへの感謝の気持ちを子供たちにも持ってほしいと願います。

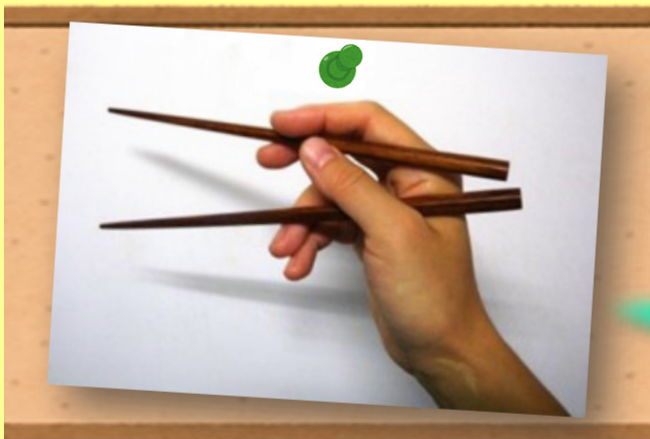
【ふれんどルーム】



おはし名人になろう

日本人が昔から使用してきた箸は、小さな2本の棒にすぎませんが、スプーンやフォークに比べてはさむ、つまむ、すくう、まとめる、おさえる、ほぐす等多様なことができます。日本人の手の器用さを支えているのは、子供の頃から箸を使っているからといわれ、日本人の食生活と箸は密接にかかわっています。

学校給食では、毎日のように箸を使って食事をし、和食マナーの基本ともいえる正しい箸の持ち方を身につける機会となっています。そんな箸の持ち方指導に「地域における食育推進事業」の推進校である新井小学校が取り組みました。



子供たちは栄養教諭の示す正しい持ち方ができるよう、繰り返し箸を動かし、友達と練習に取り組んでいました。

箸が正しく使えると、適量を口に入れ、こぼさずに食べることができます。食べることを楽しいと感じ、箸の持ち方への意識が高まっていくことを願います。

【保健体育課】

<正しい持ち方のポイントは3つ>

- ① 2本の箸のうち上の箸を鉛筆の持ち方で持ち、縦に動かせるようにする。
- ② 下の箸は親指の付け根と薬指で支え、動かさない。
- ③ 2本の箸の間に中指が少し入る。

